

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 52

2022年12月発行

令和4年度 秋季企画展  
旧植田家、大運動会

勝手にうえまつ秋の2大行事  
植松灯籠の目 &  
うえまつ劇場

防災で飯炊き体験と観月会

連載コラム  
「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十六)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

# 展示のご案内

令和4年度 冬季企画展

旧植田家 住居的

## 昔のくらし

～映・屋・灯～

えい

映写 映像 投影

やあ

屋根 火屋 屋外

とお

灯火 点灯 灯台

明治～昭和のくらしを映す、灯す昔の道具をみつけよう!

令和4年(2022) 12/10(土)～3/13(月)

令和5年(2023)

(開館時間) 9:00～17:00(入館は16:30まで) ※最終日は16時まで(閉館を早く)  
休館日: 火曜日、12/28(水)～1/4(水)、2/13(月)・24(金)

- 1/9(月・祝) 展示解説の日  
①11:00～、②14:00～ ※申込み不要、各30分ほど
- 2/11(土・祝) 講座「昔のあかり、明るさ比べ」  
・13:30～15:00 ※要申込み、定員15名、100円(資料代)

※展示と空手は一切関係ありません。

八尾市指定文化財  
安中新田会所跡 旧植田家住宅

(指定管理者: NPO法人 HCALE)  
〒581-0084 大塚町八尾市穂松町1-1-25 TEL 072-992-5311 <http://kyu-uechikayutaku.jp/>  
(入館料) 一般250円、高校生・大学生120円、中学生以下は無料

## 冬季企画展「昔のくらし～映・屋・灯～」12/10(土)～3/13(月)

明治から昭和時代までの灯りを中心に、旧植田家のにこの懐かしい生活道具などを展示します。

※休館日は P15 をご覧ください

# Contents

- 4 令和4年度 秋季企画展  
旧植田家、大運動会
- 6 夏の名残り…  
冷やし・土蔵で・Zoo宅2022
- 7 大阪教育大学コラボレーション演習  
活動記録掲示板
- 8 勝手にうえまつ秋の2大行事  
植松灯籠の日&うえまつ劇場
- 10 防災ご飯炊き体験と観月会
- 11 日日植田家住宅 第9日: 試行錯誤の綿毛フェルト!?
- 12 四会所だより(32) ~ぶらり新田四会所まちあるき~
- 13 植ちょぴ(お茶会、ギャラリー、七五三)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十六)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



## 表紙写真



ギャラリーにて  
バックナンバー  
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』の  
バックナンバーはホームページ  
からダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

### 旧家で観月会(雲晴れて月出づる)

十五夜(中秋の名月)の2022年9月10日(土)  
に開催した「旧家で観月会(夜間開館)」。生憎  
の天気かと思われたが、イベント開催中  
みまると月が姿を現した。  
イベントの様子は10頁で紹介。



# 旧植田家、大運動会。

※これは企画展示です。  
実際の運動会ではありません。

令和4年(2022)

9/16(金) ~ 12/5(月)

旧植田家って  
何をしてた家？



←目録はこちら

## プログラム(展示内容)

- ◎リレー(旧植田家代々)
- ◎徒競走(江戸~昭和時代を直走る旧植田家)
- ◎玉入れ(寄付・寄進・返礼文書など)
- ◎障害物競走(事業・教育関連文書)
- ◎綱引き(交渉・駆け引き)
- ◎騎馬戦(選挙運動)

## 百花繚乱



旧植田家代々  
初代・林蔵  
↓  
四代・市太郎  
↓  
五代・一郎  
↓

令和4年度 秋季企画展

## 旧植田家、大運動会

「宣誓！僕たち、私たちは…」で始まる運動会。ではなく、今日までの調査で明らかになっている旧植田家の軌跡を改めて検証すべく、運動会のプログラムになぞらえた展示を行なった。旧植田家が八尾の地にやって来て260年。現代までリレーのようにバトンを引き継ぎ、時には競争、時には協力しながら、その時代を乗り越えてきた。

また障害物競走や綱引きのように関わってきた様々な事業や運動などを古文書から明らかにし、八尾における旧植田家の人物や業績について知ってもらう機会とした。教育活動や選挙運動にも関わった旧植田家の「騎馬戦」にも注目したい。百花繚乱ともいえる旧植田家の運動会が幕を開けた。

### 【リレー・徒競走(旧植田家代々)】

「安中新田分間絵図」が改められて50年後、宝暦12年(1762)ごろ初代植田林蔵が大和田原本(奈良県)から安中新田(八尾)に移転し、代々植田家とその支配役を受け継いだ。明治には三代目林蔵の弟・市太郎(四代目)

# 旧植田家が八尾の地に移り住み、早260年！



1762年、初代植田林蔵が新田支配役となる

事業・家業・公職に携わった  
ことを示す様々な文書類



江戸～昭和時代の資料の数々が  
旧植田家の軌跡を明らかにする。



学校用地の寄付関連資料



旧植田家代々ゆかりの品々

が庄屋役を務め、五代目・一郎の時代に入ると教育や産業に連なる様々な事業に携わり文化が花開いた。

## 【障害物競走・綱引き・玉入れ】

近世には新田支配人として村方の支配に当たり、近代に入っても様々な地域の公職を歴任。鉄道やカタン糸、農事、製油、銀行などの事業や家業として製売業、質屋、郵便、酒造などにも携わり、河内木綿の産業にも関わったことが古文書から伝わる。

一方で、学校用地や備品などの寄付、寺社への寄進、災害支援など金銭的な支援のほか、様々な教育活動も行ない、地域に還元した。そして平成17年、旧植田家の屋敷、土地、所蔵資料は八尾市へ寄贈され現在に至る。

## 【騎馬戦（選挙関連資料）】

幕末の著名な政治家との関係を示す資料や、中江兆民の選挙出馬に際して植田家がその費用を貸したとみられる資料もみられる。また昭和27年に旧植田家が八尾市の教育委員に出馬した際の資料なども展示した。

最後のプログラムが終了したため、運動会はこれにて閉幕。  
(学芸員 安藤亮)

# 夏の名残り… 冷やし・土蔵で・Zoo宅 2022

夏休みの宿題に！  
令和4年(2022) 大人の工作体験に！

どぞう  
**土蔵でクラフト**

8/3(水) からくり玩具  
「ネコとネズミ」  
8/20(土) 「回リネズミ」



特別企画  
**旧植田家 Zoo宅**  
7/30(土)～9/4(日) 2022

納涼企画2022

冷やし  
はじめました  
旧家、

7月17日(日)～9月4日(日)

## ◎冷やし旧家、はじめました。

7月17日(日)～9月4日(日)「冷やし旧家ははじめました。」を、3年ぶりに蚊帳の体験展示を復活して行ないました。また富山県(日本最古のラムネメーカー)から取り寄せていた瓶ラムネがなんと終売(製造終了)となっていたため、今年は佐賀県の老舗飲料メーカーから取り寄せ、ラムネの販売も行ないました。コロナ禍で色々なところに影響がありつつも、夏の暑さは変わらず、今年も冷やし旧家に助けられた夏でした。



## ◎土蔵でクラフト

夏休み期間中の8月5日(水)・20日(土)は、今年も「土蔵でクラフト」を開催。今回は過去に好評だったからくり玩具「回リネズミ」と「ネコとネズミ」の工作を日替わり

で行ないました。

両日ともたくさんの子どもたちが参加し、個性のある作品が出来上がりました。夏休みの宿題にも使えて大変便利です。

## ◎旧植田家 Zoo宅 2022

去年からスタートした夏の特別企画「旧植田家 Zoo宅」。7月末から9月初めまでの期間、2022年版を開催しました。昨年は30種以上の動物(イラスト)が建物に潜んでいましたが、今年はその約20種を加え、さらに隠れ場所も建物内部だけでなく庭にまで及びました。また釣り堀も出現!探して遊んで、見つけるたびに「おった!」と大喜びする子どもたち。来年もまた来てね。



## 大阪教育大学 教育コラボレーション演習

2022年8月～12月の5ヵ月間さまざまなイベントなどの活動を行い、地域や旧植田家住宅を訪れる方々とたくさんの関わりを持つことができ、多くのことを学ぶことが出来ました。

この記録掲示板ではたくさんの活動の中からとくに印象や思い出に残った活動を取りあげて紹介しています。

# 大教大コラボ演習生 活動記録掲示板

## むかし遊び

担当：いりぐち



おはじきをして遊ぶ様子



ぜひ来てね!

「むかし遊びの日」は、毎月第3日曜日(昼～)に開催!

私は元々手先が不器用で「むかし遊び」はあまり上手ではありませんでした。小学校低学年以来で、約十年振りのむかし遊びに緊張しつつ活動日を迎えました。当日お手玉やけん玉、めんこなどに挑戦すると、どの遊びも成功するためのポイントがあり、成功すると嬉しく、とても楽しいと改めて知ることができました。また、この日は地域の子どもたちと一緒に「おはじき等をして、「みんなで一緒に遊ぶ楽しさ」も感じる事ができました。現代にも様々な遊びが在ります。むかし遊びには「どうしたら上手く出来るのか」を一緒に遊ぶ人とみんなで共有できる遊びが多いため、魅力がいっぱいあると、この活動を通して考えることが出来ました。

## かまどでご飯炊き

担当：よしむら



ご飯が炊きあがった瞬間



かまどの火加減を調節

教育コラボ演習全体を通して特に印象に残っているのはかまどでご飯を炊いた体験です。僕はかまどでご飯を炊いたことが無かったので、新鮮だった上にとっても貴重な体験ができたと思います。かまどで美味しくご飯を炊くには火加減の調節が重要で、慣れを要する作業です。この作業を毎日やってきた昔の人は遅い<sup>たくま</sup>いなと思いましたが、今は炊飯器がほとんどのことを自動でやってくれるので、昔と比べてお米を炊く労力はかなり少なくなりました。それ故に美味しいお米を食べることが当たり前になっていく人も多いのではないのでしょうか。僕はこの活動を通して自分が普段送っている生活のありがたみを再確認できたと思えました。

秋の2大行事

# & うえまつ劇場



秋も深まる11月12日(土)、第2回目の「うえまつ劇場」お庭で人形劇・紙芝居」が開催。昨年の庭から会場を移し、今回はウチニワ(土間)が舞台となりました。出演は地元を中心にボランティアで活動されている方々にお願ひし、人形劇と紙芝居を披露してもらいました。会場には初めて生で紙芝居や人形劇を観るという子どもも参加し、終始夢中になってお芝居を楽しみました。来年もまた「うえまつ劇場」をどうぞよろしく。

◎うえまつ劇場

〜お庭で人形劇・紙芝居〜



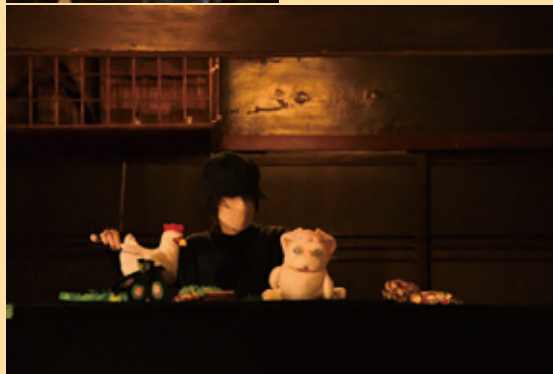
おひさま/どうぞのいす



ようこさんの紙芝居



わかごぼう/とんかちくんとのかぎりくん



人形劇のかざぐるま/痛い痛いのとんでけ〜!

## お庭で人形劇と紙芝居! (ウチニワ)



紙芝居にあわせて一緒に踊るこどもたち



勝手にうえまつ

# 植松灯籠の日

◎植松灯籠の日(夜間開館)

今年の「植松灯籠の日」は関西文化の日(無料入館日)に合わせて11月19日(土)の夜に開催しました。元々は庭の「金比羅灯籠」を地域にPRする目的で始めましたが、夜間開館と庭のライトアップが楽しめ、毎年変わる影絵も定着してきたこともあり、遠方からのリピーターも増えています。今年は昨年の竹灯籠風デザインの屋外灯と日本の伝統文様影絵に加え、猫の影絵(猫カゲエ)も登場しました。秋の旧植田家住宅にはまだまだ楽しい要素がたくさんあります。



↑竹灯籠風にデザインした屋外灯。

←楓と電灯の中に生えた草の緑が鮮やかな屋外灯。



↑表裏で絵が変わるユニークな影絵

↓茶室に映る猫の影絵(ネコカゲエ)



穏やかな光と影が  
秋の古民家を演出！

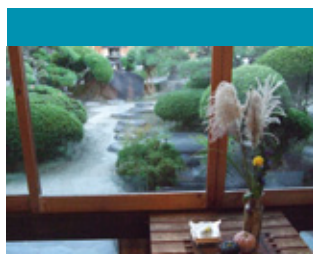


庭からみる主屋の灯りと影絵と電灯

### 9/3 「防災！かまどでご飯炊き体験」

「うえまつ秋の2大行事」(8・9月のほか、旧植田家住宅では毎年「かまどでご飯炊き体験」と「観月会(お月見)」のイベントを秋に行なっています。ご飯炊き体験は「防災の日」にもちなみ、避難訓練や最新の防災グッズの紹介、防災食の試食もあり、「日頃の防災の為になった」「文化財の避難訓練が知れた」「美味しかった」という感想をいただき毎回好評です。

今年もコロナの影響で一部制限がありつつも、避難方法・消火器の使い方・かまどを使ったご飯の炊き方・子どもはマッチの火の付け方と薪の組み方・防災マップの入手場所・役立つ防災グッズの知識と日頃の備えなどを学び、防災食・かまどで炊いたご飯・かまど以外の方法で炊いたご飯でお腹も満たされ、文字通り大満足のイベントとなりました。



### 秋の夜長に「旧家で観月会」 9/10

もう一つの秋のイベントは「旧家で観月会」。普段なかなかみることのできない夜の旧植田家住宅で、月見団子とススキを飾り、中秋の名月を鑑賞します。また事前予約の月見団子が座敷で食べられ、旧植田家所蔵の「月の掛軸」を当日限定で見られるなど、かなりお得な内容になっています。例年は雅楽演奏や巫女舞なども八尾市まちなみセンター(久宝寺)の協力でを行なっていました。今年も残念ながらコロナの影響で呼び寄せることができま

せんでした。

その代わりではありませんが、収蔵品の大正時代の蓄音機と所蔵するSPレコードの鑑賞会を、なぜか電子楽器テルミンの演奏と一緒に急ぎよする運びとなりました。ちなみに所蔵するレコードの枚数は約50枚ほどで、今回はその中から「月」に関する童謡や流行歌などの曲を選び、参加者と一緒に楽しむことができました。食欲の秋、芸術の秋、文化の秋など色々な秋をまた来年も旧植田家住宅で感じていただければと思います。

(スタッフ)

◎写真(右上から) 縁側のススキと月見団子

／雲間の中秋の名月／月の掛軸／座敷で

芸術鑑賞会／蓄音機となぜかテルミン

◎写真(左上から) 消火器訓練／マッチの

点け方／防災グッズ紹介／かまどでご飯

炊き／アイラップでご飯炊き

【河内木綿のまち・やお】

八尾市の木(市木)といえば「いちよう」、八尾市の花(市花)といえば「菊」、八尾市のマンホール蓋といえば「糸車」のデザインが八尾市民であればすぐに浮かびます(多分)。糸車はかつてこの地域で栄えた「河内木綿」を象徴し、八尾が河内木綿の伝承の地であることを示しています。現在は産業としての役割を終えてしまった河内木綿の「綿」が今回の話題です。

八尾市は「胃腸に効く」と賞える

第9日: 試行錯誤の  
 綿毛フェルト!?



Trial and Error



【河内木綿あれこれ】

八尾に住んでいると「河内木綿」という言葉をよく耳にします。これは一言で言うと「布」です。もう少し厳密に一言で言えば「江戸時代から明治にかけて八尾を含む河内地方で栽培した綿から糸を紡いで手織りされた木綿(布)」のことで、植物としての「綿(棉)」のことではありません。それでもつい「河内木綿を育ててます」と言ってしまう、ある意味「河内木綿」の幻影を育てているのかもしれない。

という理屈はさておき、現在も八尾では河内木綿の普及(伝承)を市内各地の様々な団体や個人が取り組まれ、ここ旧植田住宅も微力ながらその一端を担っています。10年以上続けている「河内木綿体験」(毎月第一土曜開催)では、植田家の畑や駅前花壇で育てた綿を使って綿織り(実綿から種を取り出す作業)から糸紡ぎまでの体験を行なっています。『江戸時代やったらこれ(河内木綿)で大儲けできたんよなあ』と心の中で叫びつつ、ただひたすら作業を続けます。

【綿毛フェルトは木綿を救う?】

木綿体験後の大量に余った綿の使い道がいま深刻な問題になっているとかないとか。そんな時、以前流行った「羊毛フェルト」を自分の育てた綿でやっているという方が木綿体験に参加され、作品の写真を見せてもらいました。(河内木綿)綿毛フェルトいけるやん。(心の声)、で早速百均で「羊毛フェルトキット」を入手。まずは試しに羊毛で「羊」を作ってみました。←何故か「猿やん」ってさんざん言われた後はスタツフ全員で「綿」を使った作品制作に挑戦。さて綿毛フェルトは果たして河内木綿普及の救世主となるか!?



綿毛コレクション2022



# 四会所だより (32)

ぶらり新田四会所まちあるき

〜安中新田会所編〜

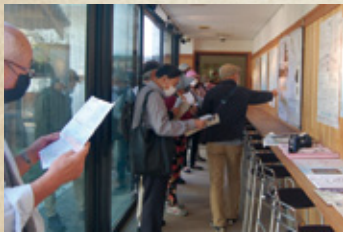
新型コロナウイルスの影響を受けながらも続けて参りました四会所交流ですが、今年度は四会所連携企画をやるうという流れになり、10月21日(金)「ぶらり新田四会所まちあるき」を行ないました。この企画は各会所を中心としたまちあるきを毎年リレー形式で実施しようというもので、第一回目は安中新田会所が担当しました。

平日の開催ともあって一般参加は僅かでしたが、関係者だけで20名近くの参加者が集まり、ちよつとした同窓会のような状態でした。まずは旧植田家住宅展示室の「安中新田分間絵図」とギャラリーで展示中の航空写真&周辺マップを見てからスタート。安中新田会所の位置は旧大和川跡にあることから、周辺の道や風景の中にも大和川付け替え前後の痕跡

(堤跡など)が今も残っています。古くからある渋川神社で旧大和川の堤防の高さを体感して、まちあるきを再開しました。コースはふだん旧植田家住宅で行なっているものをベースに、以前に作成したまち歩き用地図「うえまつぷ3」を活用。約1時間半で安中新田会所の周辺、長瀬川(旧大和川)沿いを散策しました。参加者はそれぞれの地域で旧大和川との関わりを持たれているため、いつもと違った視点でまちあるきを楽しめたと思います。

今回の企画では、身近な場所でありながらも周辺地域の些細な変化や地形のつながりにも気づくことができ、そして会所交流によって沢山の方々との関りを改めて意識することができました。さて冒頭に戻り、そんな四会所交流ですが、諸事情により来年からは再び三会所交流となります。次回のまちあるきは未定ですが、交流は続きます。

(安中新田会所跡 旧植田家住宅 安藤亮)



ギャラリーでコースを確認。



川(長瀬川)を歩けば  
会所に当たる!?

渋川神社で堤の高さを体感。



長瀬川(旧大和川)沿いを散策

# マンジーくん

安富士 暁



八尾高校・茶道部の部員



誠心誠意のおもてなし

## 植ちよぴ。(ックス)

「植田家住宅の・ちよっとした・トピックス」

### ① 3年ぶり「夏のお茶会」を開催！

2022年8月27日(土)

コロナ禍以前は毎年夏と冬の年2回お茶会を開催しており、その「夏のお茶会」が約3年ぶりに行なわれた。今回も地元八尾高校・茶道部の協力のもと、新型コロナウイルス対策のガイドラインに従い、

座敷には新鮮な空気が流れ込んだ。

この3年の間に茶道部も部員が入れ替わり、旧植田家住宅でのお茶会は全員初めてだった。また開催の判断も難しい状況であったが、誠心誠意取り組む部員とのおもてなしを受ける参加者の笑顔が何よりの喜びであった。

### ② 「ギャラリー展示」で航空写真

2022年10月5日(土)〜12月5日(月)

令和も変わらず旧植田家住宅のギャラリーでは「再発見！航空写真に見る八尾」と題したミニ展示を開催。通年、施設内外の情報コーナーとして活用するギャラリーは、地域の子どもの憩いと学習の場にもなっている。そんな場所でのミニ展示を通じて八尾の新たな一面を知ってもらいたいと考える。

また新年には「新旧大和川と新田会所周辺の風

景」をテーマに一般募集した写生作品の展示も行う。デジタルの情報に慣れてしまった現代に、こうしたアナログな情報の良さも感じてもらえればと思う。



ギャラリー展示の様子

### ③ 旧家で今年も七五三

2022年11月2日(水)〜23日(祝・水)

3・5・7歳になる子どもたちの成長を祝う「七五三」行事に関連し、旧植田家住宅では期間中、その年齢の子どもと家族を対象に座敷や庭で自由に「記念撮影」ができる機会を設けている。普段も撮影は可能(一部を除く)であるが、お祝いで訪れる家族の姿はいっついても微笑ましい。次回の記念撮影は次の通り。



お庭で七五三の記念撮影

### これからの「旧家で記念撮影」

2023年1月5日(木)〜15日(日)

「新年・成人の日」・・・新成人は無料

2月23日(祝・木)〜3月21日(祝・火)

「ひなまつり」・・・こどもは無料

## 落穂拾い

## ― 今東光の董風 ― (四十六)

文・伊東健

昨年十一月九日に逝去された瀬戸内寂聴さんが、出家に際して今東光に相談されたのは有名な話です。寂聴さんは生前、幾度もそのことを書いたり、語ったりされていましたが、東光が瀬戸内晴美そして寂聴さんのことを、どのように見ていたのかは意外と知られていませんので、今回追悼の意味を込めてご紹介したいと思います。

僕は彼女の生家に招かれたことがあった。眉山びぜんの麓の立派な仏壇屋とんでで、幼少の彼女はあの荘厳な大小の仏壇の中で夢をばぐぐんで育ったのかと想うと、彼女のロマンチズムが解るような気がした。(中略)

瀬戸内晴美が仏壇屋のお嬢さんだから仏教信者だと僕は言っていない。けれども仏壇屋に生い育った彼女のバックボーンは疑いもなく仏教であることは間違いない。その点では岡本かの子は明らかに仏教徒であったばかりでなく信仰家でもあった。瀬戸内晴美

の宗教は人間宗ではあるまいか。(中略)

僕は何度も彼女と講演旅行をして、その都度彼女の頭の素早い回転振りに感心させられたが、同時に彼女は身変わりも早いような気がした。その点は変化性へんげいせいの女という気がする。

(後略) 引用：男まさりと人情味と―瀬戸内晴美―  
小説堂昭和四十四(一九六九年十一月発行)掲載より

引用文中の岡本かの子との比較は、瀬戸内晴美が上梓した「かの子撩乱」に由来します。この文章が掲載された四年後、瀬戸内晴美に東光が、寂聴という法名を授けることになりましたが、晴美から寂聴への大変化を予言する東光の眼力には驚かされます。さらに、この文章の続きでは次のような点にも言及しています。

僕が瀬戸内晴美の作品に感心するのは思相家ぶらないからだ。飽くまで美と情痴の世界を描いているから好きなのだ。「源氏物語」の世界で好いのだ。(中略)

瀬戸内晴美に対してかなり無遠慮なことを書いて仕舞ったが、恐らくこの人情家は僕の放言を許してくれると思う。それについてもますます多くの作品を書いて僕等の期待に応えてほしいと思う。

この「才女」に祝福あれ。(引用：前掲書)

後に、寂聴源氏として源氏物語の現代語訳を完成させることまで見通すような、励ましと愛情に包まれた文章ではないでしょうか。その後、東光は自らが亡くなる一年前に次のような文章を書いています。

(前略) 寂聴尼は恐らく並みの女性とは比べものにならない起伏ある半生を送ったのであるまいか。それなればこそ尼僧への道を求めて天台の徒となったと思っ。そういう心の過程に立つて筆をとれば益々、好いものが書けるだろうし、書く人だ。紫式部などもいろいろな体験をした女性だ。平穩無事にしたことはないが、さりとして惑乱や苦難も避けるべきではない。どっちみち死ななければならぬ人間だからだ。

それにしても四大健固に読経し筆をとり、僕のように遊戯三昧ゆげさんまいに生きてほしい。いずれ死ぬのはわかっているのだから。

(引用：寂聴尼のことまをくつによせて、昭和五十一(一九七〇年九月六日毎日新聞夕刊掲載より)

瀬戸内寂聴さんのご冥福を心よりお祈りします。△白掌。

# 旧植田家住宅のご案内

【2023年1月～4月】

## これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

2023年

◎12月10日(土)～3月13日(月)

冬季企画展「昔の暮らし～映・屋・灯～」

★1/9(祝・月) 展示解説の日

★2/11(祝・土) 講座「昔の灯り、明るさ比べ」

◎3月17日(金)～4月24日(月)

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

コロナ対策(マスク着用・3密回避・手指消毒など)にご協力よろしくお願ひします。

展示、イベント等のお知らせは  
 ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### イベント

(詳しくはお問い合わせください)

1月 ★1/5(木)～15(日) 旧家で記念撮影～新年・成人の日～

★1/5(木)～1/30(月) ギャラリー展示2022(公募展)

★1/8(日)～3/13(月) 旧家で暖家(あったか)支援

2月 18日(土) 旧家で芸能・伝統文化～落語の会～

★2/23(祝・木)～3/21(祝・火) 旧家で記念撮影～ひなまつり～

3月 5日(日) 石臼珈琲体験

19日(日) 今昔あそび体験「手習い所」

21日(祝・火) 古民家まちあるき(予定)

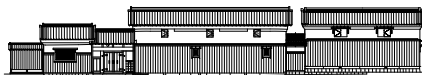
4月 未定

※予定は変更する場合があります。



## 休館日カレンダー

■ = 休館日



2023/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2 February

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

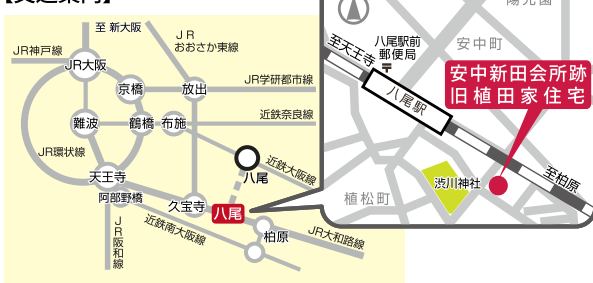
3 March

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

4 April

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

### 【交通案内】



◇ JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行  
 JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

※当施設には駐車場はありません。車でのご来館はご遠慮ください。

●開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始  
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料：一般250円(団体20人以上で120円)  
 高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談(ご予約など)

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

### #編集日記(12・20)

師走に入り、先週から急激に寒さを感じるようになり、雪による被害も出ており、気温とは逆に新型コロナウイルスの感染者数や物価は上がっている。一方で、お正月の風物詩である「凧(たこあげ)」の光景を最近ではあまり見なくなりました。毎朝観るテレビドラマの影響もあり、小さな凧を作って揚げてみたところ、かなりテンションが上がりました。それと同時に本誌のタイムアップも目前に迫っています。嗚呼。

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

